

○17番 菊竹彩花君

泉中学校3年、菊竹彩花です。私は、受験生の予防接種について、質問します。

毎年、受験の時期にインフルエンザやコロナウイルスなど、流行性のある感染症が流行っています。感染症にかかってしまうと受験の結果に影響があり、最悪受験できないこともあります。そのため、現在、市で行っているインフルエンザの予防接種の補助について、教えてください。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

菊竹議員のご質問にお答えいたします。

まず、ちょっとインフルエンザに触れる前に、同じワクチン接種で、コロナについて触れさせていただきたいと思いますが、現在、新型コロナウイルスワクチンの初回接種、これは1回目・2回目の接種なんですけれども、これが終了しまして、かつ前回接種から3カ月以上経過している65歳以上のご高齢者、あるいは基礎疾患といったものがある方、これは慢性の心臓病や慢性の肝臓病だったり、そういったものになるんですけれども、基礎疾患を有する方、あるいは医療従事者の方々を対象にいま現在、新型コロナウイルスのワクチン接種を行っております。

そして今年度、9月からなんですけど、初回接種が終了しまして、かつ前回接種から3カ月以上経過している5歳以上の全ての方々を対象に行う予定となっております。令和5年5月8日から感染症法上の第5類相当にコロナウイルスがなりましたが、引き続き今年度も接種料は国が全額負担ということになっておりますので、国内どの地域でも接種料はかからない状態になっております。これはコロナですね。

そしてインフルエンザについてなんですけども、これはいま現在、65歳以上の高齢者の方々や60歳以上65歳未満で特定障がいのある方々を除き、希望者が各自で受けることができる、受けたい人が受けられる任意接種となっておりますので、予防接種の料金は、基本的には全額自己負担というかたちになっております。これはコロナと大きく違うところです。

行橋市では、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時に流行した場合、これはツインデミックという言葉があるんですけれども、そういった場合を想定して、多くの医療機関で混乱が生じるおそれがあったため、令和2年度から令和4年度までの3年間、これは国からのコロナウイルス感染症拡大防止のための交付金、国からの補助があったんですね。こういったものを活用して、妊婦さんと生後6カ月から18歳までの方々を対象に、一回あたり令和2年度につ

いては、1,000円、令和3年度、4年度については、1,600円の自己負担でインフルエンザワクチン接種が打てるようにさせていただきました。昨年度は、福岡県内で同じようにインフルエンザのワクチン接種の補助を行ったのが、福岡県内60市町村あるんですけども、そのうち行橋市を含む15市町村が、このインフルエンザのワクチン接種の補助金を出しております。

では実際に結果はどうかというところで、ちょっと見てみますと、行橋市で実施した妊婦さんと生後6カ月から18歳までの方々のインフルエンザ予防接種の接種率、これは、令和2年度は46.5パーセントの方々が受けました。令和3年度は31.1パーセント、そして令和4年度は29.1パーセントと、徐々に減ってきております。

これはおそらくインフルエンザのワクチンも、例えば型によって結局ワクチンがあまり効かなかったとか、ちょっと型が違ってしまったというようなことがあったりもしますし、そういったところ、またワクチンを接種しても罹患する、かかってしまう場合もあるというお話もありますけれども、こういったところが影響しているかどうか、細かいところの調査はできておりませんが、いずれにしても接種率といったものが下がってきておまして、この接種率ですと、集団免疫と言われるものが実際にできないような状況でございます。

また、今年度からは国からの交付金、お金の補助といった部分がなくなってまいりましたので、そういったところで今年度、令和5年度に関しましては、今のところインフルエンザの予防接種費用の補助、こういったことは行わない予定となっております。以上でございます。

○後半議長 遠藤優奈君

菊竹議員。

○17番 菊竹彩花君

ことしのインフルエンザ予防接種について、市で行う補助等がありますか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

今のところは、行う予定はないというところです。ただ、非常にこれは重要なところでありまして、インフルエンザに関しましては、リレンザとかタミフル、そういった特効薬もありますし、またあくまでもいま現在、任意での接種、必ず受けなければいけないといったものにはなっておりませんので、今のところは補助といったものの事業は考えておりません。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

菊竹議員。

○17番 菊竹彩花君

受験生に対して特例的な助成について検討していただくことはできますか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

本当にこれは悩ましいところなんです。この話をするとすると、本来、市の財源、お金の部分、皆さん方のご家族、お父さんやお母さん、あるいはお祖父さん、お祖母さん、また企業にお勤めの方々、いろんな方々が納めてくださった税金を基にして、どこにその税金を使うのかということを我々考えて、そして議会に提案して議会がOK、可決していただければ、それを実施することができるんですけれども、今このワクチン接種といったものも、いろいろなワクチンがあります。

例えば最近話題になっているものですと帯状疱疹のワクチン、これ今後どうなっていくのかというところで注目しておりますけれども、いろいろな病気があるわけですね。その中で、先ほど申し上げた特効薬のある、また集団免疫もなかなかできない、そして接種率が落ちてきているというデータを考えると、本当にご期待にお応えしたいところはやまやまなんです。いま現在では、行橋市としましては、このインフルエンザワクチン接種の補助を出すといったところは考えていないところです。

ただ、別のかたちで、例えばいま8月もまだ実施していますけれども、子どもエール給付金といったものがあります。これはお子さん1人につき1万5,000円の補助をする、これは行橋独自のものです。これは今年度やっております。ご兄弟が2人だったら3万円、3人だったら4万5千円というかたちになりますけれども、子育て世代は、やはり非常に部活があったり塾があったり、あるいは食べ物もよく食べる、成長盛りですから、そういったところでお金がとても掛かるんですね。そういったところでワクチンに直接ではないんですけれども、いま申し上げた、例えばエール給付金、そういったかたちでご支援をするというかたちをとらせていただいております。

また今後、例えば給食費がどうなるのかとか、またさらに、今はまだ物価が高いという状況がありますので、そういったことも含めて、全体を見て、何がしか子育て世帯に補助ができないか、サポートできないか、そういったことも引き続き考えてまいりたいと思っております。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

菊竹議員。

○17番 菊竹彩花君

前向きな回答を、ありがとうございました。
以上で質問を終わります。ありがとうございました。